

感謝

信徒代表 坂本規子

明けましておめでとうございます。

評議会議長を引き受けてから4度目のお正月を迎えました。振り返ってみると、大変な中にも神様から多くの恵みをいただいた毎日だったように思います。様々な行事に参加し、多くの人に出会い、分かち合うこともできました。一信徒として、ミサに与るだけの教会生活では味わうことのできない素晴らしい体験が沢山できたと感謝しています。その任期もあと3か月弱を残すところとなりました。精いっぱい神さまの守りの中で奉仕していきたいと思っています。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

「いつくしみの特別聖年」で始まった昨年1年間は、イエス様のいつくしみについて深く考えさせられる年でした。教皇様も色々な機会を通してメッセージを送って下さいました。私は毎週のミサの中で祈られていたこの祈りの箇所が好きです。

「教会がこの世において、復活し栄光に満ちておられる主のみ顔となりますように。

あなたは、ご自分に仕える者が弱さを身にまとい、

無知と過ちの闇の中を歩む人々を、

心から思いやることができるようお望みになりました。

これら仕える者に出会うすべての人が、

神から必要とされ、愛され、ゆるされていると感じることができますように。」

評議会議長の働きの中で、最後に神様はこの祈りを通して、私に共同体について考える機会をあたえて下さいました。共同体は、神様は一人として同じ人を造られなかったように個性豊かな人が集まっています。一人ひとは神様がデザインしたユニークな存在です。その中で私たちは互いに励まし合い、助け合い、主のみ顔となって働いていかなければならない、愛と赦しを限りなく与えて下さる神に信頼し、赦し、赦されていかなければならない。すべての人は、神から必要とされている存在であることを認め合う共同体として、互いに折り合っていかなければならない。この祈りの中に教会のあるべき姿がすべてあらわされていると思います。いつくしみの特別聖年は終わってもこの祈りを忘れず、大きな心ですべての人を愛することが出来るように祈っていきたくと思います。

4年間の評議会議長の活動は、教会の方々の助けがあつてこそ大過なく続けてこられたものと思います。また至らないことが多々あったことをお赦しください。有難うございました。